

総社市地域医療連携ネットワーク会議

1. 趣旨

総社市内外の医療機関等の「機能分化」及び「連携」のあり方の検討（①）。

①に伴う課題及びその解消の方針等について意見交換を行う場。

（H26年度から開催。年2～3回開催）

2. 発足当時の課題

①2025年（平成37年）問題

団塊の世代が75歳以上になる2025年に向けた対策は急務。

②総社市の問題意識・背景について

- 総社市内の救急告示指定病院が、3ヶ所から2ヶ所へ。
- 現在、救急搬送のうち約75%が市外の病院。今後、これまで以上に市外の病院へ頼る機会が多くなるかもしれないが、真に必要な場合に市外の病院へ搬送するための努力が必要。
- 現在の医療・介護資源の効率的な活用が行われなければ、急患を搬送できないといった事例が増えることは間違いなく、市内で受けるべき患者は市内で受け、市外に頼るべき患者は市外へ頼るといふ、「役割分担」と「連携」が求められる。
- 市域を超えて関係各者の協力の下に、地域資源の効率的活用と、地域資源の充実を進める。

3. 主な検討事項

①救急から在宅までの医療体制整備

②医療介護看護の顔の見える関係づくり

4. 実施内容及び成果

- ・ 市民を対象としたアンケート調査（医療・生活・介護について）（H26）
- ・ 医療や介護の関係者を対象とした多職種を集いを開催（H26）

- ・市民を対象とした終末期についての講演会を開催（H26.27）
- ・総社市地域医療連携協定の締結（H27）
- ・晴れやかネットの導入（ICTを活用した情報共有）（H27）

★総社市地域医療連携協定（総社市・吉備医師会・倉敷中央病院・倉敷平成病院）

（目的）市民が医療や介護を要する状態になっても、住み慣れた地域で安心して生活ができるように、市域を超えた切れ目のない適時適切な医療が提供されることを目的とする。（一部抜粋）

（連携事項）

- （１）地域医療連携ネットワークの確立に関する事項
- （２）救急医療体制の確立に関する事項
- （３）地域医療を推進するための人材育成に関する事項
- （４）医療情報の提供と活用に関する事項
- （５）災害時等の医療体制の構築に関する事項
- （６）地域の医療・保健・介護・福祉の関係機関との連携強化に関する事項

★学校法人川崎学園と総社市との連携協力に関する協定

（目的）市民が医療や介護を要する状態になっても、住み慣れた地域で安心して生活ができるように、市域を越えた切れ目のない適時適切な医療が提供されるなど、地域社会の持続的な発展と人材育成に寄与することを目的とする。（一部抜粋）

★晴れやかネットケアキャビネット（きびきび）加入状況（H28.8.31現在）

加入施設数 106（うち市外16） ID登録者数 287（うち市外31）
患者同意数 153

機関種別：医療機関・薬局・居宅介護支援・介護予防支援・訪問看護・訪問介護・訪問リハビリ・通所介護・通所リハビリ・短期入所生活介護・短期入所療養介護・小規模多機能型介護・認知症高齢者グループホーム事業所・介護老人福祉施設・住宅型有料老人ホーム・相談支援センター・福祉用具貸与事業所・社会福祉法人・総社市・備中保健所